

8-4-4 道路専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 道路専門委員会の開催

委員会開催回数：8回（4月～12月）

(2) 対外活動

a) RCCM 登録更新教材の更新

「道路」及び「トンネル」について改訂作業を行った。

b) 視察

道路交通技術に関する施設の現地での知見・知識取得（自転車道、無電柱化、RAB、歩車急増道路、生活道路等）や支部との交流を目的に、「①四国での道路空間再配分（路面電車・自転車や無電柱化のまちづくり）視察」を計画したが、「平成30年7月豪雨」により災害対応や支部への負担を考慮して中止した。改めて「②北海道での自動運転やシーニックバイウェイ、無電柱化等の視察」を計画したが、「平成30年北海道胆振東部地震」により中止とした。

c) WG 活動

当委員会では、主に以下の4WGを設置して活動したので、各WGの活動記録について記述する。

① 設計システム WG

委員会社の若手技術者が集まり、「性能照査型道路計画・設計」に対して、これまでの研究を継続して活動を行った。活動の成果として、交通工学研究会より発刊された「機能階層型道路ネットワークのためのガイドライン(案)」の作成に関与した。

② 品質向上 WG

過年度から継続し、設計ミス防止、品質向上を目指した「品質セミナー」の実施に向けてのエラーの事例集収集、作成及びセミナー講師として参画した。

③ 勉強会 WG

平成30年10月19日、道路専門委員会講習会「自動運転社会を見すえた道路インフラの

あり方」を開催した（参加者65名）。

- ・ 講師：秋田大学 浜岡 秀勝教授
- ・ 目的：自動運転社会を見すえた道路インフラのあり方に関する設計技術への理解を深めること。
- ・ 内容：近年、自動車の自動運転に関する研究開発が多く進められている中、昨年には道の駅等を拠点とした自動運転サービスの実証実験が実施されている。今後、自動運転社会を迎えるにあたり道路インフラのあり方を整理することが重要となり、さらに自動運転を考慮した道路設計等の増大が予想されることから、今後の業務に活かすべく、自動運転社会を見すえた道路インフラのあり方について、より一層の理解を深めるための技術紹介であった。

④ 対外活動 WG

NEXCO 総研と、設計歩掛りの意見交換を行った。また、首都高速道路(株)と歩掛、仕様書、大規模更新等について意見交換を行った。

上記の他、働き方改革による就業環境改善についても意見交換を行った。

d) 無電柱化 WG

昨年度からの継続として、国土交通省 無電柱化促進部会コンサル WG に参加した。WG は設計システム WG や、支部選抜メンバーの支援で組織し、低コスト化に向けた技術開発を推進した。今年度は、「既設側溝の活用」、「小型 BOX の適用」「各手法における適用条件の体系化」を実施した。

e) CIM・i-Construction への取り組み

国交省、及び国土地理院の活動に参加した。

2. 次年度の活動について

今年度の活動を継続実施するとともに道路、トンネルを取り巻く課題に取り組む。

（道路専門委員会委員長 石村 佳之）